

# 樹木

アイヌ語で樹木は「ニ」niまたは、「チクニ」cikuni、「チクンニ」(チクニの異称)ともいいます。そして、アイヌの人々は、樹木を、シリコロカムイ(シリsir-大地 kor-を掌握するカムイkamuy-



佐賀 彩美 (さが あやみ)

一般社団法人北海道開発技術センター  
調査研究部研究員

北海道出身。北海道大学法学部卒業。モントレール国際大学院(現ミドルベリー国際大学院モントレール校)通訳翻訳学科修士課程修了。通訳案内士。

樹木は神と人間との仲介をする存在でもありました。樹木がシリコロカムイの頭に直結している髪の毛であるならば、髪の毛を通して神に願いを届けられるだろうと考えるのは自然な気がします。ま

た、雷はよく高い木に落ちるので、神は樹に降下する、樹木は神の依代よりしろであるという考えもあります。アイヌの神事に欠かせない樹の枝を削ったイナウも、神道の玉串にも共通した発想であり、同様の風習は世界中にあるとのこと。さらに、木に祈って病気を直してもらったことあるといます。そのときに唱える呪文は、クルコトゥナシノウエポタラ(クルkur-魔 コko-に トウナシノtunasno-早く ウエポタラuwepotara-心配する)です。木は巨木が最適で、病人を木にもたれさせて病気を吸い取ってもらうという方法が取られました。ただし、病氣治癒を祈る人は、樹の神が資格ありと認められた人に限られ、認められない人が祈っても病氣は治らず、かえって祈った人が病氣になってしまうそうです。ですから、この方法を安易に試すのはお勧めできません。確かに、庭の木が枯れるなど異変がおきると、その家の人が病氣になったとか亡くなったとかいう話は時々耳にします。このようなことから、アイヌ文化の特質としていわれる「自然との共生」は、アイヌの人々が生活のなかで自然を大切にしていたというだけでなく、自然も人間を助けたり、守っていた互助関係であったのだと思ひ至りました。

た、雷はよく高い木に落ちるので、神は樹に降下する、樹木は神の依代よりしろであるという考えもあります。アイヌの神事に欠かせない樹の枝を削ったイナウも、神道の玉串にも共通した発想であり、同様の風習は世界中にあるとのこと。

さらに、木に祈って病気を直してもらったことあるといます。そのときに唱える呪文は、クルコトゥナシノウエポタラ(クルkur-魔 コko-に トウナシノtunasno-早く ウエポタラuwepotara-心配する)です。木は巨木が最適で、病人を木にもたれさせて病気を吸い取ってもらうという方法が取られました。ただし、病氣治癒を祈る人は、樹の神が資格ありと認められた人に限られ、認められない人が祈っても病氣は治らず、かえって祈った人が病氣になってしまうそうです。ですから、この方法を安易に試すのはお勧めできません。確かに、庭の木が枯れるなど異変がおきると、その家の人が病氣になったとか亡くなったとかいう話は時々耳にします。

このようなことから、アイヌ文化の特質としていわれる「自然との共生」は、アイヌの人々が生活のなかで自然を大切にしていたというだけでなく、自然も人間を助けたり、守っていた互助関係であったのだと思ひ至りました。

\*本稿は、アイヌ語地名研究会会長、藤村久和先生を講師として(一社)北海道開発技術センターが自主事業として実施しているアイヌ文化勉強会の内容を、藤村先生監修の下、筆者が取りまとめたものです。

藤村 久和 氏 北海学園大学名誉教授 北日本文化研究所代表 アイヌ語地名研究会会長  
アイヌ学全般(精神文化・口承文芸・衣食住・民族医療(整体ほか)等)を研究領域とすると共に、アイヌの人々が自然を管理することなく、いかに共存してきたかについて、その思想や哲学を自ら学び・実践している。また、アイヌ民俗文化財調査(北海道教育委員会)に従事し、道内に居住する古老の伝承話の聞き取り作業を行い、その成果が例年報告書として刊行され、資料篇等も随時刊行している。近年は、食育コーディネーターとして北海道の食育計画にも参画する傍ら、國學院大學北海道短期大学部(滝川市)で開催のペカンベ祭で伝統料理を提供している。主な著書:『アイヌの霊の世界』(小学館、1982年)、『アイヌ、神々と生きる人々』(福武書店、1985年)、『アイヌ学の夜明け』(梅原猛氏との共編、小学館、1990年)、『知里真志保フィールドノート(6),(7)』(北海道教育委員会、2007、2008年)、『平成20~29年度アイヌ民俗文化財調査報告書アイヌ民俗技術調査1~9』(北海道教育委員会、2008~2017年)等。